

# 全国結核予防婦人会だより

発行●公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12 TEL 03-3292-9288

2015.11  
No.115



2015年度  
複十字シール图案  
デザイン:安野光雅画伯

# 健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及広報課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

## 資金寄附者感謝状贈呈式並びにお茶会

平成27年5月22日リーガロイヤルホテル東京(東京都新宿区)において、結核予防事業資金として結核予防会に多額のご寄附をいただいた個人や団体の方々に、秋篠宮妃殿下より感謝状が授与されました。また、記念写真とお茶会が行われ、資金寄附者の方々とごやかなひとときを過ごされました。



## 結核研究所国際研修生との懇談会

平成27年7月8日秋篠宮邸にて、平成27年度「MDGs達成及び結核征圧に向けた結核対策強化コース」の12カ国16名の研修生と御懇談が開かれ、研修生一人一人とお言葉を交わされました。



## 厚生労働大臣表敬訪問

平成27年度複十字シール運動に伴い、去る8月20日(木)に厚生労働大臣表敬訪問を行いました。(村木厚生労働事務次官が対応)

全国結核予防婦人団体連絡協議会から代表として東京都地域婦人団体連盟の谷茂岡会長と山下事務局長、結核予防会からは工藤理事長、前川事業部長、佐藤事業部副部長、齋藤参事が出席致しました。

工藤理事長からは結核予防会の目標として、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに10万対10以下(低まん延国)の実現や日本の結核をなくすにはアジアと世界の結核を制圧する必要があることなどをお話しいただき、続いて齋藤参事からは複十字シール運動

の歴史や複十字シール募金の用途について説明があり、谷茂岡会長からは例年行っているカンボジアスタディーツアーについて今年から婦人会員だけでなく各支部のシール担当者からも参加を募り、具体的にシール募金が役立っている現場をみて更なる募金強化につなげたいという新たな試みについて説明がありました。

続いて山下事務局長からは、平成26年結核登録者情報調査年報集計結果(概況)から結核患者の高齢化(新登録結核患者の36%が80歳以上)、外国出生者の新登録結核患者数の増加(3年連続1,000人超え)、結核性髄膜炎患者が5名発生したことに関して危惧し、早急な対応や調

査の必要性を訴えました。また「結核患者に対するDOTS(直接服薬確認療法)の推進について」の一部改正について服薬支援者として「結核予防婦人会」が明記されたことに言及し、大いに服薬支援活動に協力させていただきたいと意気込みを語りました。

村木厚生労働事務次官からは「結核に関しては大きな網でどさっと引き上げる時代は終わり、狙ってつぶしていく時期にきているのでしよう」とおっしゃっていただきました。

最後に決議宣言文(要望書)を前川事業部長よりお渡しし、決議内容実現に向けて今後ご協力を賜りたい旨をお伝えしました。



## 県知事表敬訪問

新潟県食生活改善推進委員協議会  
会長 外山 迪子

結核予防会新潟県支部の土屋俊晶代表や新潟県福祉保健部の岡俊幸部長とともに、平成27年度の複十字シール募金運動を開始する前の去る8月25日、新潟県知事への



表敬訪問を行いました。

当日は知事のご都合が悪かったため、7月に就任されたばかりの北窓隆子副知事が、知事に代わりにこやかな笑顔で私たちを出迎えてくださいました。

北窓副知事は、前職では国立国際医療研究センター企画戦略局長

をされておられたということもあり、日本における結核の実情や世界的には未だに対策が必要であるといった私たちの話に熱心に耳を傾けられ、結核対策についての理解を深めておられたご様子でした。

新潟県では、県の食生活改善推進委員が結核予防婦人団体の役割

を担っており、食を通した健康づくりに加え、結核予防の普及啓発にも力を注いでおります。

今でも日本は、世界の中では結核中まんえん国です。重要な感染症であることを訴え、多くのシール募金に協力して参りたいと思います。

### 三重県地域婦人団体連絡協議会 (三重県結核予防婦人会)

会長 梶田 淑子

8月1日の複十字シール運動の開始に合わせて三重県地域婦人団体連絡協議会(三重県結核予防婦人会)の役員6名は、公益財団法人三重県健康管理事業センター(公益財団法人結核予防会三重県支部)の理事長などとともに、8月13日に三重県の植田隆副知事を訪問して結核の普及啓発及び募金活動への理解と協力を求めました。

婦人会からは、地域で実施している日頃の普及啓発活動について説明を行うとともに、昨年度、募金を活用してブラジル人学校での結核の無料健診や、医療従事者を対象にした研修会を開催したことなどについて説明を行いました。応対していただいた植田副知事からは、「東京オリンピック・パラリンピックや三重国体があり、各国

の人が安心して来てもらえる県づくりが必要なので、協力していきたい。」とおっしゃっていただきました。

今後とも県や市町、各地区の婦

人会はもちろん時代を担う青少年健全育成活動諸団体へも働きかけて、この輪を広め結核予防の普及啓発活動の取り組みを進めていきます。



### 広島県地域女性団体連絡協議会 会長 澤井 清子

全国一斉複十字シール運動の開始に伴い、広島県地域女性団体連絡協議会正副会長、広島市地域女性団体連絡協議会正副会長、公益財団法人広島県地域保健医療推進機構常務理事、事務局次長、主任が揃って、平成27年8月3日、広島県知事表敬訪問を致しました。複十字シール運動の趣旨説明、

シール運動の概略、結核の現状等を説明した上で複十字シール運動についてお願いし、複十字小型シール、大型シール、封筒組み合わせ及び、リーフレットを贈呈し、広島県地域女性団体連絡協議会会長が代表で声明文を読み上げ、知事に手渡すことができました。わが国では、昭和27年にこの運動が始まり、以来、結核予防会や地域女性会などが中心となって活動を続けており、今年で64回目を

迎えます。今後とも引き続きこの運動を続け、結核の制圧及び国際貢献に向けて努力して参りたいと思います。



**愛媛県結核予防連合婦人会  
会長 三好 康子**

複十字シール運動への協力要請を行うため去る8月4日(火)に愛媛県知事表敬訪問を行いました。

公益財団法人愛媛県総合保健協会の久野梧郎理事長、専務理事等を始め、私たち愛媛県結核予防連合婦人会から3名、総勢8名の出席のもと、啓発グッズキャラクターである愛らしいシールちゃんのぬいぐるみを手渡し、意義ある会話の内での訪問を終えることが出来ました。

私たち愛媛県結核予防連合婦人会では、9月より始まります結核予防週間に県下各地で結核予防に関する普及啓発活動を行い、結核予防への関心を高めるため、女性ならではの活動を通して地域の状況に合った結核予防活動や複十字

シール運動に努めて参ります。

また、公益財団法人愛媛県総合保健協会と合同で、愛媛県松山市の中心地にある、いよてつ高島屋

前にて街頭募金を実施し、歩行者に結核の現状や予防を呼びかけるだけでなく、募金活動にご協力をいただきます。



**熊本県健康を守る婦人の会  
会長 東家 武子**

蒲島知事は多忙なスケジュールの中を私たちのために時間を取っていただき笑顔で迎えてくださいました。

ご挨拶では「皆様が高い思想で永年素晴らしい実績をあげて継続的に活動しておられることに敬意

と感謝を表します。募金活動にも県も支援を惜しまず“くまモン”もお出揃いたしますよ。熊本県が目指している県民の幸福度アップのためにも今後も一層の婦人会の皆様のご協力をお願いします」と温かくおっしゃっていただきこれからの募金運動を激励してくださいました。

熊本県知事表敬には副会長の寺

本真理子、伊津野和恵、富田セツ子と東家武子の四名でお伺いいたしました。



募金の応援に来てくれた熊本県営業部長兼しあわせ部長“くまモン”と公益財団法人熊本県総合保健センターのキャラクター“そうぼくん”

# 平成26年度の複十字シール募金(結果報告)

平成26年度、複十字シール運動の募金総額は、242,300,163円となりました。全国の婦人会からは約6,600万円(27.3%)のご協力をいただき、本当に有り難う御座いました。

複十字シール募金も、6年連続の減少となっており、本会が得意とする組織募金が減少しております。婦人会や市区町村を中心とする組織募金の復活が望まれます。日本の結核は、年間約2万人が結核を発病し、約10%の人が亡くなっています。その中で、高齢者の結核が問題となっており、70歳以上の全体に占める割合は、47.9%にもなります。結核の怖さを知っているシニア層へのさらなる普及啓発活動が不可欠です。結核患者が多かった時代と比べて、実体を正確に分析して、きめの細かい対策が必要となってきています。そういった意味で、日本の結核対策も難しい時期に来ているのだと思います。2020年東京オリンピック・パラリンピックまでに結核の罹患率を人口10万対10以下にするため、シール運動もあとひと頑張りというところでしょうか。

来年度は、6年連続の減少となった反省を踏まえ、リーフレットの内容に日本国内の結核対策を入れるなどして行きたいと思えます。運動で大切なことは、毎年同じ時期に募金の依頼が届く、正しい情報を繰り返し流す、共感が得られること、人の輪が運動の輪につながり、大きな運動になっていくのです。

地道にコツコツと運動を続けることが大切です。継続は、力なりです。知事表敬訪問、結核予防週間の街頭キャンペーン、イベント(健康

祭り等)等を積極的にこなしていきましょう。また、研修も、非常に重要で、中央講習会や地区の研修に参加して、新しい知識を補充したり、同じ悩みを持っている方と意見交換をしたりすることで、今まで以上に運動に力を発揮することができると思います。

今年度、カンボジアのスタディーツアーは、婦人会だけでなく、支部の担当者も参加できる見込みです。婦人会と支部の方が、世界の結核の実体の一端を見ていただくことで、シール運動の重要性を再認識することでしょう。

7月1日より始まったACジャパンの広報が、結核の正しい普及啓発につながり、国民の結核に対する関心が高まり、シール募金が増額することを願ってやみません。

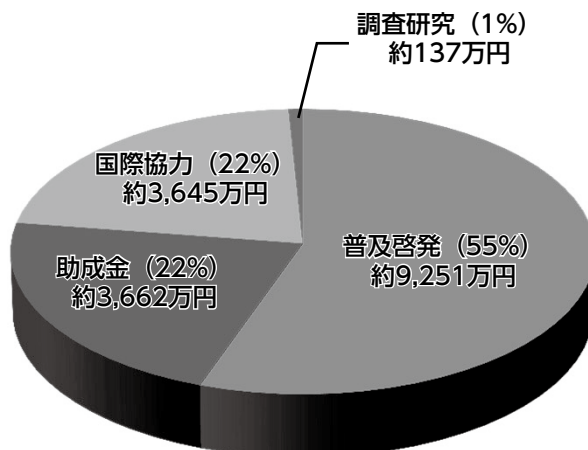
## ネパール義援金結果報告

今年4月にネパール中部で起きた巨大地震について義援金ご協力をお願いしたところ、7月末で109件、総額5,339,032円が集まりました。うち、婦人会からは716,115円(13.4%)の義援金をいただきました。この場をお借りして改めましてお礼申し上げます。

義援金につきましては、当会職員が現地NGO(JANTRA)を直接訪問し、ネパールの結核対策や結核に伴う医療機器の整備等に役立たせていただき、一日も早い現地での事業再開に向けて寄附致しましたのでご報告いたします。尚、関係記事や写真は複十字誌9月号に掲載いたしましたので是非ご覧ください。

## 平成26年度 皆様から寄せられた温かい募金は、 このような目的で使われました

募金総額	242,300,163円
諸経費	75,342,718円
益金	166,957,445円



## エックス線発見から120年にあたり ～結核診断に大きな貢献～

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

1895年、ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン博士はエックス線を発見し、翌1896年にエックス線写真と共に論文を発表しました。今年はそのから120年となります。エックス線は、発表の直後から、自然科学の様々な分野、特に医学のめざましい発展に寄与しています。なかでも、胸部エックス線検査は、結核対策に極めて大きな役割を果たし、画期的な成果をあげてきました。結核の診断、治療、予防の方法の確立についてレントゲン博士の業績を抜きに語ることはできません。



レントゲン博士の肖像写真  
(結核予防会結核研究所所蔵)

東京の国立科学博物館では、昨年12月から今年2月末まで『ヒカリ展』が開催されました。この展覧会では、レントゲン博士の著書をはじめ、放射線や電磁波など様々な光についての興味深い展示を見学することができました。

### X線発見120周年記念式典

また、今年の6月5日には、日本診療放射線技師会が主催する「X

線発見120周年記念式典」が東京でおこなわれました。

その折には、日本診療放射線技師会の中澤靖夫会長が、レントゲン博士の業績をふり返るとともに、診療放射線技師が医療専門職として、様々な検査や治療において放射線を安全に利用、管理しながら質の高い医療技術を提供するという重要な役割を担っていることを話されていました。

### 診療放射線技師とは

診療放射線技師は、3年以上の専門教育を終えて国家試験に合格した人のもつ資格です。免許取得者は全国に約6万9千人、そのうち約5万人が医療機関に勤務しています。最近では、4年制大学や大学院を卒業した技師が多く、業務の幅も広がっています。

放射線は取り扱いを誤ると健康に大きな影響をおよぼすため、放射線を用いる検査や治療をおこなうことができるのは、日本では、専門教育を受けた医師、歯科医師と診療放射線技師だけと規定されています。医療技術が高度化し、分業が進んでいる近年では、病院や診療所でも、主に診療放射線技師が放射線を用いる検査を担当しています。

### 結核予防会と診療放射線技師

結核の診断と治療には、結核菌を検出する喀痰検査に加えて、体内の様子を正確に把握するためのエックス線写真がとても重要となっています。医師が読影しやすい写真を提供するために、検査機器で撮影をおこなう診療放射線技

師には高い技術が求められます。

結核予防会には、本部と全国47都道府県の支部に合計800名以上の診療放射線技師がいます。主な業務は、結核健診・肺がん検診の胸部エックス線撮影、胃がん検診の胃部エックス線造影、乳がん検診のマンモグラフィなどです。さらに、本部の複十字病院と新山手病院では、放射線を用いたより高度な検査や治療もおこなっていると伺いました。

また、結核研究所では、胸部エックス線写真の精度管理研究会を毎年開催して、全国の支部で撮影された画像をランク付けし、問題点とその対策を検討していると聞きました。フィルムによる写真からデジタル画像への移行に伴い、診療放射線技師も多様な技術の維持と向上のために日々努力されています。

日本のエックス線写真は、技師の技術と使用する機材とともに、世界においても極めて高い水準にあるといわれています。結核予防会では、アジアやアフリカの国々へ診療放射線技師を派遣し、現地の医師や技師を対象にエックス線写真の撮影や読影の研修を実施してきました。また、結核予防会の支部がミャンマーやカンボジアに寄贈したエックス線検診車は、結核健診や実態調査に日々役立てられています。

この大きな節目の年に開催された記念式典や博物館の展示、そして診療放射線技師の話を通して、放射線について、また人々の健康を守るための検査や治療を安全におこなえるように努めている診療放射線技師という大事な仕事について考え、理解を深める機会となりました。

## 会長就任ご挨拶

### 福島県健康を守る婦人連盟 会長 内堀 栄子



このたび、福島県健康を守る婦人連盟の会長に就任いたしました。一言ご挨拶申し上げます。

去る8月に、南相馬市において健康集会を開催いたしました。福島県の浜通りでは、震災の影響により双葉地方の市町村が避難しており、双葉地方健康を守る婦人連盟も休会を余儀なくされています。そのような中での開催となりましたが、広く県内に避難されている会員の方々にも多数足をお運びいただき、震災後初めて浜通り全方面の会員参加が実現いたしました。当日には、会員相互が親交を深め、集会后には複十字シール運動にも取り組みました。

福島県民が健康で長寿を実現するためには、まず私たちが正しい知識をよく学び、家族や地域の友人に伝え実践することが重要です。福島県健康を守る婦人連盟では、避難されている方を含めた福島県民皆が集える「学びの場」を提供するとともに、福島から健康づくりに関する情報を発信できるよう、今後とも全国の皆様からのご支援を賜れますよう努めてまいり所存でございます。

### 栃木県結核予防婦人連絡協議会 会長 佐山 幸子



今年度から、栃木県結核予防婦人連絡協議会小野ナツ会長の後任として会長になりました。いままで副会

長として至らなかった私ですが、幹部研修会や全国結核予防婦人団体連絡協議会30周年記念式典に出席させていただき感謝しております。一人でも多くの方に研修等に参加して会活動を理解し、活動への協力を働きかけ、活動を共にして行きたいと思っております。今後ともご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

先日、栃木県の地方紙下野新聞社の健康欄で「結核になお警戒を」の記事があり、会活動の重要性を痛感しました。厚生労働省のまとめでは、国内でなお年間2,000人を超える人が亡くなっています。36歳～56歳までの受診・発見の遅れと、戦後の流行期を経験した80歳以上の方が発症者の40%近くを占めていたとの結果から、職場、地域での感染の広がりを予防する活動が、会活動の重要課題と思っております。

### 千葉県連合婦人会 会長 渡邊 年子



平成27年度、千葉県連合婦人会総会において会長に就任いたしました。私には荷が重く感じますが、皆さまのご協力とご指導を頂きながら、任務を果たしてまいりたいと存じます。

結核は過去の病気と思っておりましたが、現代でも多くの方が感染し、発症しているとの事に驚きました。千葉県連合婦人会は、昭和23年発足、結核予防婦人会千葉県支部として、予防活動に取り組んできた歴史ある団体だと伺っています。

8月4日、公益財団法人ちば県民保健予防財団の理事長と研究部長、

婦人会から副会長、事務局長と共に県知事表敬訪問をいたしました。あいにく知事は公務でお留守でしたが、健康福祉部保健医療担当部長、疾病対策課長、同じく副課長にお会いして、複十字シールへのご理解をお願いいたしました。

まず、私たちの出来る事、それは市町村で行う健診の啓発から、結核に対する正しい知識を身につけて、複十字シール運動に参加して参ります。

### 静岡県結核予防婦人会 会長 長野 蝶子



本年6月より、静岡県結核予防婦人会会長という大役を引き受けさせていただきました。土屋前会長の意思を

受け継ぎ、会の育成・運営に精一杯務めて参りたいと思っております。

さて、近年の当会は市町の合併、会員の高齢化や減少などに伴い、組織の規模・活動が縮小し、弱体化が進みつつあります。これは決して本県のみではなく、全国的にも同様の問題を抱えている県が少なくないと推察されます。非常に苦しい現状ではありますが、そのような中でも、私たち結核予防婦人会の活動目標である結核予防の普及啓発や健診事業への協力は、結核制圧へ向けた貴重、かつ重要な使命であることを再認識していかなければならないと痛感しています。

50年以上に及ぶ当会の活動を今一度見つめ直し、皆さまとともに、今後とも結核予防活動を広く推進していきたいと願っております。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

滋賀県地域女性団体連合会

会長 鶴飼 淳子



平成27年4月より滋賀県地域女性団体連合会の会長をお引き受けすることになりました。まだまだ未熟者でございまして諸先輩の皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

どこの県も同じように滋賀ちふれんもまた平成の大合併により所属団体数が減少し、それに伴う会員数の激減、危機的な財政と、戸惑うことばかりでございますが、副会長や役員との協力を得て、現状に背をむけることなく立ち向かう覚悟でございます。

滋賀県民は日本一の湖、琵琶湖の恩恵を受け生活しております。その琵琶湖の環境を第一に考え、安心安全な暮らしの推進等、滋賀ちふれんには多くの課題があります。先人の築かれた品格を保ちつつ地域をステージとした凛とした活動を楽しみ続けていけるよう努力したいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

和歌山県健康を守る婦人の会

会長 堰本 信子



平成27年度総会におきまして、県婦連ならびに和歌山県健康を守る婦人の会会長に就任いたしました。よろしく願いいたします。

私が中学生の頃、結核性肋膜炎にか

かり一時休学を余儀なくされました。幸い快復が早く事なきを得ましたが、以来結核には特に関心を持っております。

最近では医療の進歩や新薬の開発、他大勢の人の努力が実り結核菌に命を奪われることは大変少なくなりましたが、高齢化の進む日本では体力の弱みにつけ込む病に油断はできません。

今、私達にできること、そして協力しなければならないことは、結核菌に誘発される余病や合併症を根絶する医療機関への支援だと思っております。複十字シール募金が結核菌制圧のために役立つことを願い、広く協力の輪を推し進めなければならないと思っております。

島根県連合婦人会

会長 田儀 セツ子



平成27年5月、島根県連合婦人会評議員会の席上にて会長の重責をいただきました。これからの行方を見ます時、身の引き締まる思いがいたしております。これより会員の皆様と手を携え歩んで参りたいと思っております。

島根県連合婦人は、結核予防婦人会と表裏一体として活動を進めております。今年も、8月5日島根県知事を表敬訪問し、複十字シール運動について目的をお伝えしたところ、活動への協力を快くお約束してくださいました。

島根県出身の安野光雅先生のデザインされた複十字シールは、とても親しみのもてるシールとなっております。今後結核予防婦人会員

として活動の趣旨を理解し、結核に関する知識を正しく伝え意識の向上を図り、貴重な財源となる複十字シール運動を会員の皆さんと推進し、結核予防活動の充実に努め、健康で明るい社会づくりへと、健診の声がけに力を注いでまいります。

高知県健康づくり婦人会連合会

会長 井上 眞喜子



このたび寺尾敦子前会長の後を継いで、高知県健康づくり婦人会連合会会長に就任いたしました。不安と

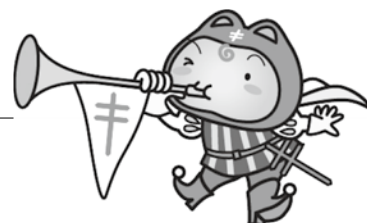
緊張の日々の中、行政をはじめ関係機関・団体のお力添えをいただき、会員皆様方とともに活動に取り組んでおります。

さて、私どもの団体は昭和43年に「高知県結核予防婦人会」として誕生し、昭和54年に名称を現在の「高知県健康づくり婦人会連合会」に改めて以来、結核対策、呼吸器疾患対策、生活習慣病対策の3つの方針に基づき、正しい知識の普及啓発や健診の受診向上に努め、また国際協力の貴重な財源である複十字シール募金を「健康募金」として位置づけ、様々な団体と連携し募金活動を展開しています。高知県の掲げる「日本一の健康長寿県構想」の実現に向けて、会員の皆様や地域住民の方々の理解と協力を力の源として、未熟ではありますが精いっぱい頑張りたいと思っておりますので、一層のご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。

イラスト・カット募集

平成28年3月号(健康の輪No.116)に掲載するイラスト・カットを募集致します。花・動物・その他、何でも結構です。締切は、平成28年1月8日(当会必着)です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12  
TEL:03-3292-9288





# 人が人とながって人を治す

## — 「結核患者に対する DOTS」の一部改正について—

皆様、お久しぶりです。梅園フジ子でございます。



健康の輪 (H21年7月号) に出させていただいてから、6年が過ぎました。あの時は第60回結核予防全国大会の人形劇に出演した(梅園フジ子) 私がインタビューを受けましたが、今回はインタビュアーを務めさせていただきます。

おかげさまで、6年前に結核になった息子の一郎は、半年間薬を飲んですっかり良くなりました。最初は飲み忘れが多く心配しましたが、保健所の保健師さんや診療所の看護師さん方の励ましとDOTSのお陰で飲みきりました。

何でも、この度、国の通知が改正されて、地域DOTSの服薬支援者として「結核予防婦人会員」の名前が記載されることになったそうです。今回、その経緯や婦人会員の関わりについて、結核研究所の小林典子さんにお話を聞きしました。

Q. 読者の中には、DOTSという言葉を知りません。まず、DOTSについて、教えてください。

A. 結核の治療は最低でも6カ月間、複数の薬を毎日飲み続けなければなりません。治療を開始すると、咳や熱などの症状は2週間程度で治まります。症状がなくなると、人は薬を飲むことを忘れてしまうものです。でも、そこでやめてしまうと、肺の中の結核菌はどんどん増えていってしまいます。だから、治療を提供する側(医療者)が、最後まで飲み続けられるよう患者さんを見守

り、励まし、服薬の終了を見届けようというのがDOTS (Directly Observed treatment Short course: 直接服薬確認療法) です。

Q. 実際、DOTSはどのように行われているのでしょうか。今回の改正の目的を教えてください。

A. 入院中は主に看護師がベットサイドに出向き、患者さんが確実に薬を飲み込むまで見守っています。毎日続けることで、薬を飲む習慣が身につきます。退院後は保健所の保健師が継続して支援を行います。高齢者の場合には訪問看護師や薬局薬剤師とチームを組んで支援することもあります。

今回の通知で、保健所長は自宅で結核の治療をしている方々の服薬確認指導を結核予防婦人会や民生委員、母子保健推進委員など、地域の方々に依頼できるようにになりました。患者さんの生活の場で服薬を見守る方々を増やし、服薬の中断をなくすことが目的です。地域の皆様にご協力いただくことについては、保健師が事前に患者さんやご家族に丁寧に説明いたします。

Q. 具体的には何をすればいいのでしょうか。

A. 「だれが、いつ、どのような方法で服薬を見守るのか」患者さん一人ひとりの支援計画については、医療機関と保健所が話し合っていて決めています。皆様に依頼する際、保健師が具体的な支援方法をご説明いたします。また、定期的な研修も行われています。

流れとして、自宅や決められた場所で患者さんが支援者の前で

薬を飲む、支援者はきちんと飲み込めたかどうか会話などをしながら確認する、服薬手帳にサインをする、ことになります。高齢の患者さんでは結核以外の薬が処方されていることも多く、必要な薬を飲んでいなかったり、薬剤シートから薬を取り出すことが困難であったりします。薬がうまく飲めない、体調がおかしい等が生じた場合は、保健師が責任を持って対応いたします。

Q. 最後に、地域DOTSの服薬支援者として、結核予防婦人会員に期待することについて、一言お願いします。

A. 結核は「人に知られたいくない病気」「できれば、かくしたい病気」と考えられがちです。でも、昔と違って薬で治る時代になりました。薬をきちんと飲めば、人にうつすことはありません。正しい知識を持って、患者さんの服薬を見守り、結核が治ったことを喜んでくれる人が地域にいることは、結核の偏見をなくすことにつながります。今どき結核になった人が昔と同じ苦しみや辛い思いをしないために、地域で暮らす婦人会の皆様が服薬支援者になっていただく意義は大変大きいと思います。

「DOTSとは、人と人との人間関係そのものである」結核予防会会長であった、故青木正和先生の言葉です。DOTSを通して、地域の皆様の信頼関係が育まれ、結核になっても、高齢になっても、誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続けられる社会が築かれることを期待いたします。



# 2015年世界禁煙デー記念イベント 「受動喫煙防止条例制定に向けて」

～2020年東京オリンピック・パラリンピックを無煙環境で成功するためには～

去る平成27年5月31日(日)日本医師会1階大講堂(東京都文京区)にて公益社団法人日本医師会、たばこと健康問題NGO協議会、一般社団法人日本禁煙学会、受動喫煙のない日本をめざす委員会共催による標題のイベントが140名の参加者を集め盛大に開催されました。各方面の専門家による講演、シンポジウム、アトラクションにより構成され(詳細プログラムは下記参照)、受動喫煙による具体的な健康被害や、世界と比較した日本の受動喫煙防止対策の遅れ、飲食店、宿泊施設の完全禁煙化に向けて我々市民が行える行動の具体例、たばこ政治の利権構造など、たばこにまつわる様々な側面からの講演と共に、受動喫煙防止条例制定に向けての具体的なアクション例を共有することができました。

尚、厚生労働省は6月1日(月)に開催した「がんサミット」の中で世界禁煙デー特別プログラムを設け「2020年、スモークフリーの国を目指して～東京オリンピック・パラリンピックに向けて～」をテーマにパネルディスカッションが行われました。



シンポジウムで法整備実現に向けた提案をされる講師の方々

### ♪プログラム♪

開会挨拶	受動喫煙のない日本をめざす委員会委員長 (公益財団法人健康・体力づくり事業財団理事長)	下光 輝一 様
主催者挨拶	公益社団法人日本医師会常任理事	羽鳥 裕 様
来賓挨拶	厚生労働省健康局がん対策・健康増進課長	正林 督章 様
講演座長	公益財団法人結核予防会理事長	工藤 翔二 様
講演①	「東京オリンピック・パラリンピックを迎えるにあたり “禁煙都市”をどう実現するか」 国立がん研究センターがん対策情報センターたばこ政策研究部部長	望月友美子 様
講演②	「受動喫煙の健康被害の実態」中央内科クリニック院長	村松 弘康 様
講演③	「受動喫煙防止条例制定に向け医療従事者ができること」 杏林大学医学部総合医療学教室教授	野村 英樹 様
講演④	「受動喫煙防止法制定への取り組み(法律化への取り組み状況の報告)」 参議院議員・東京オリンピック・パラリンピックにむけて 受動喫煙防止法を実現する議員連盟幹事長	松沢 成文 様
シンポジウム座長	健康・体力づくり事業財団常務理事	増田 和茂 様
アトラクション	シャンソン歌手 ピアノ	高木 椋太 様 小林岳太郎 様
閉会挨拶	たばこと健康問題NGO協議会会長 (公益財団法人結核予防会顧問)	島尾 忠男 様

## シールちゃんのぬいぐるみができました

ご好評いただいているシールぼうやに加えて、今年は長いお耳とリボンが特徴のシールちゃんのぬいぐるみができました。

一つ一つ手作りのため、顔の表情も少しづつ違い、とても愛らしいシールちゃん。シールぼうやをお持ちの方はぜひお隣に、お持ちでない方はぜひセットでご注文いただけますようお願い申し上げます。



シールちゃん 1,800 円 シールぼうや 1,500 円

ご注文問い合わせ先: 結核予防会事業部普及広報課宛 電話 03-3292-9287

患者さんの  
Quality of Lifeの向上が  
テイジンの理念です。

**TEIJIN**

Human Chemistry, Human Solutions

帝人ファーマ株式会社 帝人在宅医療株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD(XX)A5X(TB)1201



私たちの使命は  
「生きる喜びを、もっと」

グラクソ・スミスクラインは研究に基盤を置く医薬品およびヘルスケア企業です。世界中の人々がより充実して心身ともに健康で長生きできるよう、私たちは生活の質の向上に全力を尽くして参ります。

私たちが大切にしている価値観の一つが「患者さん中心」であり、あらゆる意思決定や活動の中心に患者さんを据えています。

**グラクソ・スミスクライン株式会社**

〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル  
<http://glaxosmithkline.co.jp>

あなたの、健康のそばに。



**大正製薬**



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。  
それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC医薬品のリーディングカンパニーとして、

より優れた医療用薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、  
常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。

大正製薬株式会社 〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1 インターネットホームページ <http://www.taisho.co.jp>  
©製品についてのお問い合わせは【お客様119番室】電話03-3985-1800 受付時間8:30～21:00(土・日・祝日を除く)